

健康ワンポイントアドバイス



発行：十日町市中魚沼郡医師会

発行日：令和3年6月発行

第227号

長時間労働者の面接は心で

新潟産業保健総合支援センター

所長 興梠 建郎 氏

2020年12月16日関越自動車道で大雪による渋滞が発生し50時間以上の立ち往生が発生した。魚沼地方の企業から長時間労働者の面接指導を要請されたが、生憎地域産業保健センターでの対応が出来ず、総合支援センターに救援の話があって、対応を要請された。この企業の長距離トラックもまた関越自動車道の渋滞に巻き込まれていて、社員はそちらの対応も大変な様子であったが、長時間労働者への面談は何とか時間をやりくりして対応して頂いた。社長さんに御社のトラックも関越の雪の中にいるのでは？と声をかけたところ、難儀そうなお顔の中にも笑みが漏れ、私も一昨日から救援で殆ど休んでいないし、これから食料などを届けに行くとのことであった。

2020年12月30日夕方から降り出した雪は、正月明けの2日には高田で1mを越え、その後も降り続き、1月7日頃からは降り止むことなく、高田地方では9日に2m近くの積雪となった。生活道路は何とか確保できたが、除雪作業では雪の置き場所もないほどとなった。

除雪作業員は深夜早朝から出勤、休憩することも不十分なまま、除雪車を道端に寄せて仮眠しながらの作業であった。深夜～早朝の除雪作業を一旦切って、会社に戻り朝食を摂って若干の休憩の後、通常の勤務に戻るといふ、かなりきつい状態での生活が続くことになってしまった。

当然ながら時間外労働が100時間を超え、労働安全衛生法による医師による面接指導を行わなければならないことになった。また、一部の社員は新潟市に派遣され、新潟市内の除雪を請け負うことになっていた。新潟市内の除雪作業員では足りないためである。新潟市内の除雪は、圧雪が多い上、雪の置き場所もない状態で、除雪車の運転は簡単ではない。運転席は暖房があるとはいえ、視野を確保するためにそんなに広くはないし、除雪車は太いチェーンを巻いているので、振動もあって腰に来る。

このような事情で12月～1月～2月に一度に大勢の長時間労働者が発生、面接指導を要請されたが、地域産業保健センターではもはや手に負える限度を超えていて、総合支援センターに対応を求められ、面談を行うことになり、一部は新潟で、一部はリモートでWEB面談を行った。

対象者の方々は壮健な若者や壮年男子であった。面談が始まるまでは大体緊張と不安で硬い表情で入ってくる。殆どの方が医師や産業医による面接指導は受けたことがないし、一般定期健康診断後の事後措置の指導も受けたことがないという。産業面談のもつ意味は長時間労働者を放置すれば、一つには生活習慣病を惹起し、脳心臓疾患のリスクが高まり、過労死へと繋がることを遮断しなければならない。もう一つは休息・睡眠不足から脳細胞の疲労が蓄積、正常な思考を妨げ、うつ状態からうつ病の発生、過労自殺へと進行しないように配慮することである。面談では除雪の大変な状況のお話に耳を傾け、どんな様子であったか、眠くて辛くても地域のため頑張っていた様子をお話しして頂いた。産業医の出来ることは、耳を傾け、心を寄せて、労うことしかない。まず、あの豪雪の寒波の中で、一生懸命頑張ったことに感謝の言葉をかけることしかない。お話頂いて、皆さんのおかげで地域の生活が守れたことに感謝、本当にありがとうございました。ご苦労様でしたと声をかけるのが、精一杯だし、またそれで充分でもある。除雪車運転で雪の置き場もなく、やむを得ず少し車庫の前に雪を置こうものなら役所に苦情が来るという。また、それを市役所から会社を通じて作業員にも苦情を伝える担当者もいたという。作業員が菓子折りを持って挨拶に行ったという話もあった。何もそこまでもと思ったが、作業員は皆まじめな方々ばかりであった。

今回、凶らずも大雪による除雪作業員の長時間労働者面接を行ったが、辛そうな方は居なかった。ただ、特別な医師による面接指導ということに戸惑いながら、緊張した面持ちで入場された方々が、終わって笑顔で感謝の言葉を返して戴き、帰られるのを見たとき、面談は意味があったと思った次第でもある。

産業医の面談は、労働の現場を知って、労働者の気持ちに寄り添い、労うことで意味を持つと再度認識した。

令和3年 早春